

【A年】

大斎節前主日

神よ、あなたはその独り子の受難の前に、聖なる山の上でみ子の栄光を現されました。どうかわたしたちが、信仰によってみ顔の光を仰ぎ見、自分の十字架を負う力を強められ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は出エジプト記第二十四章十二節から」

12 主が、「わたしのもとに登りなさい。山に来て、そこにいなさい。わたしは、彼らを教えるために、教えと戒めを記した石の板をあなたに授ける」とモーセに言われた。
15 モーセが山に登って行くと、雲は山を覆った。16 主の栄光

がシナイ山の上にとどまり、雲は六日の間、山を覆っていた。七日目に、主は雲の中からモーセに呼びかけられた。17 主の栄光はイスラエルの人々の目には、山の頂で燃える火のように見えた。18 モーセは雲の中に入って行き、山に登った。モーセは四十日四十夜山にいた。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第九十九編

1 主は王。すべての民は恐れおののく＝ 神はケルビムに座し、地は震えおののく
2 シオンにいます主は偉大＝ すべての民にあがめられる
3 神の偉大な名はたたえられる＝ 神は畏るべき、聖なる方
4 あなたは審きを愛する力ある王＝ 堅く公正を立て、ヤコブの中で審きと正義を行われた
5 わたしたちの神、主をあがめ＝ その足台のもとにひれ伏せ、神は聖なる方
6 神の祭司、モーセとアロン、神を信じるサムエル＝ 彼

7 らは主を呼び求め、神は彼らにこたえられた
神は雲の柱の中から民に語られ＝ 彼らは与えられた
諭しとおきてを守った

8 わたしたちの神、主よ、あなたは彼らにこたえられた＝

あなたは赦しを与え、罪は罰で報いられる

9 わたしたちの神、主をあがめ、尊い山で伏し拝め＝
わたしたちの神、主は聖なる方

使徒書

朗読者 「使徒書はフィリピの信徒への手紙 第三章七節

から」

7 しかし、わたしにとつて有利であつたこれらのことを、
キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。8 そ
ればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあま
りのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キ
リストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それら
を塵あくと見なしています。キリストを得、9 キリスト
の内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から
生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰
に基づいて神から与えられる義があります。10 わたしは、
キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあずかつ
て、その死の姿にあやかりながら、11 何とかして死者の中

からの復活に達したいのです。

12 わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全
な者となつてゐるわけでもありません。何とかして捕らえよ
うと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえら
れているからです。13 兄弟たち、わたし自身は既に捕らえ
たとは思つていません。なすべきことはただ一つ、後ろのも
のを忘れ、前のものに全身を向けつつ、14 神がキリスト・
イエスによつて上へ召して、お与えになる賞を得るために、
目標を目標してひたすら走ることです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第十七章一節以下に記され

た主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。2 イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のようになり白くなった。3 見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。4 ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」5 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。6 弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。7 イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」8 彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。

9 「一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」